

2008 年度「大学院生海外学会発表支援制度」選考結果のお知らせ

選考委員長 池上知子

標記制度の募集を学会ホームページにおいて平成20年3月31日を期限として行いましたところ、7名の応募がありました。さっそく、渉外担当常任理事(池上知子)を委員長として、上野徳美氏(理事)、上瀬由美子氏(一般会員)、伊藤忠弘氏(一般会員)により選考委員会を構成し慎重に審議いたしました。その結果を踏まえ、常任理事会、理事会の議を経て、5名を支援対象とすることを決定しました。なお、支給金額は、前年度を踏襲し航空運賃の半額に学会開催期間日数×5000円を加算した金額といたしました。

以上の内容を平成20年6月10日付けで本ホームページに掲載致しましたが、その後、支援対象者のお一人から受給を辞退したいとの申し出がございました。したがって、最終的に下記4名が支援対象者となりました。あらためてここにご報告いたします。

<支援対象者一覧>(五十音順)

- 笠置 遊(大阪大学大学院人間科学研究科)

発表題目: The effect of the multiple audience problem on self-presentation.

発表学会: XXIX International Congress of Psychology

学会開催地: ベルリン(ドイツ)

- **田端拓哉**(大阪市立大学大学院文学研究科)
発表題目: Trait self-esteem as a protector against threats from the past.
発表学会: XXIX International Congress of Psychology
学会開催地: ベルリン(ドイツ)

- **原田知佳**(名古屋大学大学院教育発達科学研究科)
発表題目: Self-regulation as a predictor of delinquent behavior and socially inconsiderate behavior.
発表学会: XXIX International Congress of Psychology
学会開催地: ベルリン(ドイツ)

- **横山ひとみ**(大阪大学大学院人間科学研究科)
発表題目: The role of speech rate and gaze in persuasion.
発表学会: XXIX International Congress of Psychology
学会開催地: ベルリン(ドイツ)